

季節のおまつり

## お熊甲祭

くまかぶと

能登半島の中央部へは北陸新幹線が開通し大変便利になつた。金沢から七尾へ出て、のと鉄道に乗換え能登中島へ着く。七尾市中島町にある久麻加夫都阿良加志比古神社は延喜式にもある古社で通称お熊甲と呼ばれ、毎年九月二十日に勇壮な熊甲二十日祭の棒旗行事が行われる。

当日朝十時、近郷各集落に鎮座する十九の末社から繰り出された神輿は、天狗面をつけた猿田彦に先導され、「イヤサカエー」の掛け声とともに惣社に向かう。神輿に続くのは、高さ二十メートルもの深紅の羅紗布地にそれぞれ祈りの言葉が黒く縫い取られた大棒旗の輿で、その旗竿にはサルノコという三番叟姿の猿の人形が括り付けられており、これは神の使いの意味である。猿田彦は天孫降臨の際に天照大神に命じられて瓊杵尊を道案内した神で、浅草の三社祭などでは天狗面を付けて恐ろしい形相で神輿を先導するが、ここで片足ずつステップを踏みユーモラスに乱舞するので、この祭りの見どころの一つになつ



神輿を先導する猿田彦

ている。

(写真・文 宮本卯之助)

ていう。 拝殿に全神輿が勢揃いすると奉幣式が行われる。その後、神輿を先頭に大棒旗を担ぐ若者たちによる渡御が、七〇〇m離れた御旅所である加茂原へ向かつて進む。加茂原ではお練りが行われた後、棒旗を地上すれすれにまで傾ける「島田くずし」と呼ばれる妙技も披露される。島田とは娘が結う日本髪の島田髪のことと、その昔、大旗の先端が祭り見物の娘の島田に当たりくずしたことに由来しているといふ。

この時期、北陸の各村落では、一年の五穀豊穣を感謝し祝う秋祭りが繰り広げられ、稔りの秋を迎える準備が始まる。



境内に勢揃いした棒旗

祭りとともに

## 王子神社本社神輿

八月三日大安に御本社神輿をお納めしました。王子神社はその一帯の地名の由来ともなっております。



平成29年8月27日初渡御

この度、ご縁をいただき、弊社にて携わさせていただいたこの御神輿には北区の無形民俗文化財に指定されている「王子田楽舞」をモチーフとした彫刻が左右の堂羽目にほどこされています。御神輿の大きさを示す台輪は氏子町会の各御神輿より大きい三尺（約九十分チメートル）です。御神輿お披露目式の際には氏子各町の多くの方々にご覧いただき、お喜びの声を頂き、弊社にとつて誠に名誉のことと存じます。

この王子神社の御本社神輿が末永く王子の地で親しまれ、地域の安穏と繁栄をもたらすよう願っております。

神輿は先ず土台となる木地が出来上がる

と、その上に漆塗りや金箔が施されます。

その後、飾り金具が取り付けられたり、

動植物などの図柄が彫り込まれた木彫

刻のパーツが組み込まれて行きます。

飾り金具は神輿全体に、主に唐草模様を彫った金具千枚から千五百枚が取り付けられます。一方、木彫刻は縁起の良い空想上の聖獸である龍・鳳凰・白虎・玄武や神武天皇、長寿を寿ぐ鶴・亀や謡曲「高砂」から題材をとった相生の松と老夫婦の翁・嫗の夫婦和合の話など様々あります。時にはお客様の要望により氏神様の神社に因んだ図柄を彫ることもあります。

神輿の本体は方形なので、屋根の頂に



正面となる長押彫刻の午（馬）と懸魚の朱雀

## 神輿を飾る意匠

神輿むかしばなし

乗る鳳凰の向きで正面が分かります。が、彫刻によつても正面が見分けられます。神輿の堂の部分には「長押」があり、干支の十二支が取り付けられます。北を指す裏正面には子、南を指す正面には午が来るよう、十二の動物が堂を守護するようにぐるりと配されます。子と午を結ぶ南北の線を子午線と言います。

また「四神」という方位を表す彫物が入ることもあります。四神とは東の青龍・南の朱雀・西の白虎・北の玄武で、神輿の正面は南に当たるので朱雀がきます。四神は中国の風水思想に関係し、都城を外敵から守る役割があります。

## 触れ太鼓

太鼓むかしばなし

小気味よい太鼓のリズムに続いて「相撲は明日が初日じやぞえ、○○山には××じやぞえ」といった独特な言い回しの口上が印半纏を着た呼び出し連中によって読み上げられます。触れ太鼓と呼ばれるこの太鼓は各

幕の知らせと主な取り組みを触れ回る習わしで、現在は大相撲の興行が始まる前日に行われます。両国・国技館で興行の際には弊社にも立ち寄つていただき、店内には太鼓の音色と注目の口上がご覧いただけます。

猿田彦は謎めいた存在です。猿田彦は謎めいた存在ですが、神輿の先導で良く見かけますが、良くなれば「天狗面を付けた猿田彦」という事であつて実はいません。そして天狗自体も古来は妖怪として登場し、後に修験道と結びついて山の神となつた

り、実はその容貌も諸説様々のようです。鼻の長さが七咫、背の長さは七尺という言い伝えから天狗との紐付けが始まつたと推察しても、一体誰が最初に猿田彦に天狗面を付け、どのようにして全国に広まつていったのか？今回ご紹介したお熊甲祭に登場する猿田彦の軽快な動きと東京の祭礼で見られる猿田彦の違いから、そんな事に思いを馳せるのも祭礼を訪れる醍醐味の一つです。実際にその土地と人々の中に身を置く事でこの国の豊かな民俗の世界を感じ、また次なる祭礼ではどんな発見があるだろうかと興味は尽きません。

代表取締役社長

宮本芳彦

行	發
株式会社宮本卯之助商店	企画広報室
〒111-1035	東京都台東区西浅草二十一
電話	〇三一三八四四一二二四一